

荻窪病院だより

医療法人財団 荻窪病院 広報誌

2022 年 7 月 7 日発行

発行責任者: 布袋 祐子

企画/編集/印刷 地域連携室

〒167-0035

東京都杉並区今川 3-1-24

代表 TEL:03-3399-1101

地域連携室直通:03-3399-0257

「人が好き」から医師へ、そして院長へ 新院長に布袋祐子医師が就任 時代に即した急性期病院を目指します

本年 5 月 1 日より布袋祐子
(ふてい ゆうこ) 医師が病院長に
就任いたしました。05 年に皮膚科

の医師として荻窪病院に入職し、
診療部長、副院長を経て病院長に。就
任して、はや 2 カ月が経ちました。

「患者さんや地域のために、少し
大きい視点では社会のために、
我々に何ができるのかというこ
とを日々確認していく必要があ
ると感じています。この 2 年間



92 年慶應義塾大学医学部卒業 医学博士
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
●日課だった徒歩通勤 1 万 8 千歩は、院長にな
ってからは一万歩台に。週末のテニスでストレス
解消。「勉強よりもスポーツの家庭で育ちました」

病院長/ 皮膚科部長/ TQM 推進部長

布袋 祐子 ふてい ゆうこ

は、杉並区の中核病院として新
型コロナウイルス感染症対応
を主にしてまいりましたが、こ
れからは以前のように一般の
患者さんを多く拝見すること
で、本来の急性期病院の役割を
果たしていかなくははいけな
いと考えています」

コロナ発生時には率先して
発熱外来や PCR スポット検
査に入り、素早く診療体制を構
築しました。

「私の専門は皮膚科ですが、皮
膚科医の前に一医師であり、専
門云々は関係なく、未知の感染
症に対しとにかくできる事か
らやろう、取り組みもう！という
使命感をもって臨みました。
スタッフも本当によくつい
てきてくれました。敷地の狭い
当院で、1 日何十人ともなる
PCR 検査を患者さんに負担
なく、いかに効率的に行うか。

午前はこの問題だったから
午後はこうしようと、職種を
越えみんなが毎回知恵を出し
合って一致団結しトライして
いく姿に、今後何が起きても
乗り越えて行けるのではない
か、という力強さと誇らしさ
を感じました。柔軟性をもつ
てその都度対応できるのは、当
院のよいところだと思います」

今のうちから将来を 見据え、IT 化を推進

TQM 推進部長として、早
くから院内の IT 化を進めて
きた布袋院長。RPA による
業務の省力化(※)や、外来の
一部で試験導入している AI
問診など、改革を進めます。

「人口減少で、働き手の確保
が難しくなることは目に見え
ていますので、効率化できる
ところを今から進めることが
大事だと考えます。人でしか

AI 問診



「現在は一部の科のみですが、いずれ全科で
運用の予定です。患者さんのお薬手帳をスキ
ャンし、カルテに薬名が自動入力される運用
も始めています」

できないことは人が、人でな
くてできることは IT 化し、
デジタルと共存することで、
医療従事者が本来やるべき
業務、患者さんに寄り添う時
間の創出ができると考えます。

AI 問診は患者さんの回
答からさらに踏み込んだ問
診を医師に代わり AI が行
い電子カルテに反映される
ことで、患者さんの待ち時間
も含めた(時間短縮)が可能
です。当初「高齢の方には難
しいのでは」という意見が出
ましたが、実際に運用してみ
ますと 80 代くらいの方まで
は難なくこなされています。
業務改善は何でもそうです
が、患者さん目線の医療、患
者さんに寄り添う医療が最
終目標になります。デジタル
化もそこに行きつくはずで

人と接するのが好き、から
医師への道に

急性期病院の女性院長は少なく、東京都でも片手で数える程です。

「女性の権利をうたうのはあまり好みませんし、女性だから、ということでもないと思います。ただ、病院は女性職員が多い職場ですから、トップが女性でも悪くはないのかもしれませんが。」

私は自分がこういう立場になるとは想像すらしておりませんでした。自分のやるべき事に線引きせず、様々な事に前向きに取り組むことで、活躍の場を得られる、またこうしたキャリアパスもあるということを若い先生方に知ってもらえればうれしいです」

医師になろうと思ったのは、高校生の頃だそう。

「人と接すること、人に喜んでもらうことが好きで心理学に興味を持っていたことがひとつのきっかけになり、医学部へと進みました。」

皮膚科を選んだのは、外科的な手技もでき、内科的な要素もあり、人の心という繊細な面も大きく影響する疾患を取り扱う科で



皮膚科外来診療の様子。「遠い」親戚スタンスなのは、優しいだけでなく、時に厳しい話もすることもあるので、と布袋院長

あるところからです。私の外来はアトピーの患者さんが多く、全身をよく診て、触って、治療を進めますので、初めての患者さんにはよく「え、脱ぐんですか？」と言われます。診療の際、私はへちよつとおせっかいな遠い親戚のおばさんスタンスを心がけていまして、不安で怒りやイライラを抱えている患者さんにも、それを理解して壁を作らずに接します。

すると患者さんも徐々に打ち解けて、お互いよい診療ができると思っています」

最後に、患者さんやご家族はじめ、地域の皆さんへのメッセージをお願ひします。

「患者さん・ご家族には「荻窪

病院にかかってよかった」と思っただけで、安心安全の医療提供ができる、信頼される病院にしていきたいと思っています。病院にいらしての皆さんの心を少しでも軽くし、安心な気持ちになって頂けるよう、患者さんに寄り添った医療の提供を職員で行ってまいります。

一方で、組織は長が変わっただけでは変わりませんから、トップが変わったことでスタッフの気持ちや新しい業務改善やチャレンジがなされ、ひとり一人が責任をもって職務を全うすることで、職員も院長も成長して欲しいと思っています。

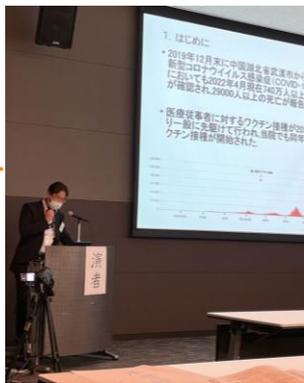
今回の私の就任をその「機」とし、職員が一丸となって荻窪病院を時代に即した急性期病院として進化発展させることができたら、こんなにやりがいのあることはありません」

※RPAによる業務の省力化 これまで人が行っていたPC上の規則的な事務作業をソフトウェアに自動で処理させることで作業時間の削減、その分の時間創出が可能となる。2022年からTQM (Total Quality Management) 推進部が中心となって開発に取り組み、6千時間相当の事務作業時間を削減した。

Ogikubo Hospital Topics

セコム提携病院研究発表会で
中央検査科の発表が銅賞を受賞

6月18日に都内でセコム提携病院研究発表会が開かれ、中央検査科の『コロナワクチン接種後の抗体量について』が、銅賞を受賞しました。当院スタッフ11名のワクチン2回目接種時と3回目接種時の抗体量を比較し、3回目のほうが、2回目よりも、抗体量が「速く多く」産生された結果から、一度抗体が獲得されれば、暴露時(ワクチン接種や感染時)には速やかに抗体が作られるであろうことを示しました。当院はコロナ禍においても各部署研究活動を継続し、知識と技術、医療の質の向上に努めています。



発表を行う坂本則男検査科科长



荻窪病院イメージ動画を
作成しました。
ぜひご覧ください！

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針

1. 急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3. 豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4. 経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。

